

Poly-Vitamina

各地有名藥店又は日本人商店に販賣す

藥價 三〇〇錠二十五鈎 一〇〇錠十二鈎 液劑二〇〇瓦十三鈎

無力状態に陥れる胃腸組織を自力的に恢復せしめるといふことは、胃腸

病衰せる胃腸の組織細胞に自然治癒力を賦與す

此の組織細胞の機能を自ら振興させて、自力更生的の療法によつて、より速かにより本質的に治療の目的を達しようといふのが、慢性胃腸病治療の最も新しい治療法であります。これは最近薬化学の発見による、特種ヘフエ菌グアイタミンB複合體、強力チアステアゼ、ペプシンの総合體錠剤ボリグイタミナは最も賞用せられて居る理由も次に述べる理由にもとづきます。

胃腸病は何故癒り難いか？

胃腸病は急性胃カタル、或は腸カタル等の少數疾患を除くの外、大部分は慢性となり易い傾向を持つて居ります。殊に胃酸過多症、胃アトニー（胃弱）、消化不良、胃腸カタル、便秘等は慢性胃腸病中もつとも多數を占めるものであります。

これ等の慢性胃腸病の治療は、醫師においても患者においても、長日月月になつた忍耐を必要とするのが常で、患者は相當嚴格な食餌の制限を守り、服薬を続けなければなりません。病勢は一張一弛して殆ど治療の無効なるかを想はしめる場合は多々あるのであります。従つて胃腸病治療者は醫師を轉々し、或は醫藥に對する信頼を失つて、種々なる民間療法又は非醫者の療法に希望を求めるやうになりがちです。慢性胃腸病の癒り難いのは、胃腸組織が長きにわたる衰弱によりて、その機能が無能力状態に陥つてゐるからであります。

主なる胃腸病に對する錠劑
ポリウイタミナの効果畧説

溜飲症

(胃酸過多、及び無酸症)

胸やけ、嘔吐、空腹時における胃部の痛み等を主徴とする病症は、従来胃酸過多症と呼ばれ、胃酸の分泌過剰又は胃液中の酸度の過多に因ると考へられてゐましたが、しかるに其の後診斷

胃とトニーと。胃腸といふ器官が示すごく胃腸病の意義によつて、その緊張がはげし過ぎる食料を起して、攝取した食物の腸に送れることが大體に遅れ、従つて食物の胃内に滞留から嘔吐、或は消化不良の下痢を種々やうになります。これは慢性胃腸病中にも治療効果の容易に見えないもので、出来るだけ食物の胃内に滞留を遅くならしめるために藥の如き水がけに當める軟食を食料を少く攝りしめるのでありますが、さういふ治療的食料の療法も長年にわたつては却つて胃腸の緊張を益々増長し、一般食料の低下と相俟つて自然治癒力の顕現を妨げるやうな結果となります。

「一般ボリダイミナ」は先づ胃の組織と腸の組織の新生代謝を活潑にして、稠密せる細胞を健全なる細胞に代へて、その組織を更新するのでありますから、胃腸の緊張が恢復され、食物の胃

「鉦劑ポリヴィタミナ」は先づ胃の組織細胞の新陳代謝を活潑にして、病後せる細胞を健常なる細胞に代らしめその組織を更新するのでありますから、胃筋の緊張が恢復され、食物の胃

胃アトニー (胃弱)

消化の過程とともに、かゝる状態に必ずしも胃酸過多の場合のみ起るものでなく、反胃に胃酸の分泌が著しくは胃酸中の酸度の稀少な場合、即ち減酸症、又は無酸症と呼ばれる病症においても起るものであることが明かとなり、一語して胃酸症と呼ばれることになつたのであります。それで従来の胃酸の低きアルカリ剤を與へることは、胃酸過多症の場合でも既に弊害ありとせられてゐましたが、もしそれが無酸症の場合に知ずして與へるならば、その害は論ずるまでもなく、非常に危険なものであります。

しかるに「錠剤ポリヴィタミナ」は化學的酸と中和するとか、分泌を抑制すると云ふのでなく、胃酸細胞を働いてその病的變化を正し、自から胃酸分泌の助長せるを抑制し、萎縮せるの細胞ならしめて、ともに正常の機能に返らしめるのでありますから、その例へば胃酸に引かれる胃酸症に對しても効果を發揮し、他の重胃症の如き無酸症の虞がありません。

腸力タル
(慢性下痢、消化不良等)

内通過お早くなり、食後の胃部膨張感や食後の感じが除かれ、従つて食餌も底證的な消化性のものであるを要せず、普通の食餌に耐えてよく空腹を感じ、嘔吐や下痢を起らなくなるのであります。

胃腸病は危険だ！

病衰體も忽ち空腹感を起す

病衰體に活性藥を

慢性胃腸病に錠劑

ポリヴィタミナー

製造發賣元

大河内薬化学研究所

Rua Santo Amaro, 132 Tel. 2-4818
Caixa Postal 1082 São Paulo